

農家組合

農家組合は、集落における組合員とその家族による自主的な活動組織です。集落を基本に組合員を構成員として、営農・生活両面の協同活動を展開し、農業振興や地域コミュニティの活性化を担っています。農家組合の機能には、営農面・生活面・JA運営面の3つがあります。

農家組合協議会

花巻地域 農家組合協議会	10地区 農家組合協議会	154 農家組合
北上地域 農家組合協議会	6地区 農家組合協議会	82 農家組合
西和賀地域 農家組合協議会		31 農家組合
遠野地域 農家組合協議会	5地区 農家組合協議会	100 農家組合

農業まつり

「食と農」の大切さをアピールする事を目的に、各地域で毎年10月に開催しています。JA本店で開催している農業まつりでは、オリジナルの炊き込みご飯を昔ながらの羽釜で炊き上げる「ごはんを食べよう!飯炊き名人」、組合員が3世代で餅をつき、つきたてを来場者に振る舞う「三世代ふれあい餅つき大会」、組合員とその家族など有志による手踊りや郷土芸能などを披露する「おらほの芸能自慢ショー」などのイベントに参画しながら、JAと一体となって協同活動を盛り上げています。



男女混合ソフトボール大会

従来開催していた男子野球大会と女子バレーボール大会を一つにし、平成28年度から「男女混合ソフトボール大会」を開催。組合員とその家族の健康増進や各地域間の親睦と交流を深める場になっています。



はなまきキッズ農業塾

農家組合長の推薦により選出した小学5・6年生が消費地である東京都に向き、市場の見学やファーマーズマーケットでの販売などを体験。子どもたちに農産物の流通や食と農への理解を深めてもらい、次世代の担い手育成に励んでいます。



地域ごとの活動

農家組合には、JAとの事業連携における協同活動のほか、自主的に取り組んでいる活動があります。田植え後の慰労会にあたる「さなぶり」や実りの秋を祝う「収穫祭」、視察研修や交流会などを組合員とその家族を巻き込みながら行い、心豊かに暮らせる地域づくりに貢献しています。



地域の子もたちに農業の大切さや農作物のおいしさを伝えようとカボチャを贈呈(大迫地区農家組合協議会)



高橋 堅悦 会長
(花巻市下似内)

平成24年度から農家組合長を務め、平成26年度には宮野目地区農家組合協議会長、花巻地域農家組合協議会長に就任。平成30年度から全域の農家組合協議会長を務める。

現 在は、農家の高齢化が進んでいます。JAには「ゆりかごから墓場まで」の精神のもと、介護施設を充実させるなど、これからも農家を支えてほしいです。また、併せて地域の人口減少も課題になっています。減少をどう食い止めてどう増やしていくか。ピンチをチャンスに変える方法を考えていきたいと思っています。

農 家組合の活動の中でも大切だと感じるのは、やはり農業まつりへの参画です。「ごはんを食べよう!飯炊き名人」や「三世代ふれあい餅つき大会」などのイベントを通して、農家組合内の結束が深まるほか、各地域の農家組合が1カ所に集まることで地域を越えた交流の場にもなっています。さらに、このイベントは農業まつりのメインイベントの一つであり、多くの人が来場します。釜飯や餅の振る舞いにより地域住民と触れ合い、農業や農産物への理解を深めてもらう絶好の機会になっています。また、「はなまきキッズ農業塾」も子どもたちが流通を学ぶことができる大切な活動。市場見学やファーマーズマーケットでの販売体験などを通して、家族が生産した農産物の「その先」を勉強できる貴重な機会です。



Union is Power

~協同の力を未来へ~

JAいわて花巻は、平成20年5月1日にJAいわて花巻、JAきたかみ、JA西和賀、JAとおのの4JAが広域合併して以来、組合員をはじめ地域住民の皆様を支えられ広域合併10周年を迎えました。この10年間、JA運動の礎である組合員組織と支店が核となり活発な協同活動を展開。ともに力を合わせる事で“協同の力”を発揮し、地域の彩りある農業振興と元気な地域づくりに取り組みながら、今日のJAを築き上げてきました。

今月と来月の特集は、広域合併10周年記念特別企画。第一弾の今回は、組合員組織のあゆみを振り返り主な活動を紹介するとともに、各代表者の想いを紹介します。

- 平成26年2月 女性部・青年部合同沿岸地域支援活動「長靴ホッケー交流会」
- 平成22年4月 農家組合協議会統合総会
- 平成22年4月 青年部設立総会
- 平成21年3月 女性部設立総会
- 平成20年5月 新生「JAいわて花巻」発足

JAが1つになるとき… 東日本大震災復興支援活動

平成23年3月11日に東北地方を襲った「東日本大震災」。このとき、私たちは“協同の力”を問われました。誰もが今まで経験した事がない被害のなかJAは組合員に支援を呼び掛け、組合員組織を中心にJAいわて花巻の力を結集。震災直後から現在まで、長きにわたって被災地に寄り添い、支援を続けてきました。



白米一升運動

沿岸部からの「食料が足りない」という連絡により、JAでは農家組合を通じて白米の提供を呼び掛けました。停電の影響で情報伝達が難しいなか、組合員の相互扶助精神により最終的には46tの量を収集。精米する必要がない白米は、沿岸部の皆さんから喜ばれました。



草刈り支援活動

震災直後から、毎年お盆前に盟友たちが現地に向き、仮設住宅周りや住宅跡地で草刈作業を実施。また、津波で機械を流失したという住民の声を聞き、新品の草刈機械と薬剤散布機を寄贈しました。現在は、盟友が栽培した農産物の販売も行い、交流を深めています。



支援物資の提供

震災直後から、部員たちは緊急支援物資として毛布や衣類などの生活必需品を募り、数多くの物資が集まりました。部員たちが性別やサイズなどによって仕分けのち、沿岸部に届けられました。また、現在も継続して沿岸部の皆さんと交流を深め、「絆づくり」に繋がっています。